



トップに聞く!

「誠実と信用」を貫き、伝統を大切に、
創業160年の次代へと堅実な前進を。

株式会社ジョーキユウ
代表取締役社長

としあき
松村 等 彰 氏

取引店 / 福岡銀行 本店営業部





▲明治4年建造の土蔵の前で(左から松村社長、谷頭取)

歴史は150余年。
現代に受け継がれる
伝統の技をベースに発展

当社は、江戸幕末の1855年(安政2年)に創業し、現代に至るまで158年の歴史を有する醤油造りの老舗です。初代松村半次郎が筑前の国、旧紺屋町(現福岡市中央区大名付近)で「楠屋醤油」を興し、黒田藩御用達として醤油、味噌を献上販売したことに始まります。

明治に入り、二代目松村半三郎が初代とともに精励しましたが若くして亡くなり、その後、松村久吉が三代目となりました。現在まで続く当社のロゴマークは、1910年(明治43年)に、久吉の名前の一部である「久」と、上等品という意味を込めた「上」を合わせた「上久」をデザイン化したものになっています。

昭和に入り、39年(昭和14年)に松村半次郎が四代目となりまし



▲明治43年の商標登録証(「上久」をデザイン化)



▲創業当時(安政3年、4年)の棚卸帳



▲品評会で首位優等賞受賞時の宣伝隊(昭和6年)



▲昭和3年正月の初荷積出し(本社前)

た。第二次大戦の影響は大きかったようで、45年(昭和20年)の福岡大空襲では大火に見舞われ、現社屋南の仕込みタンクや102本の桶があつた各棟が全焼したと伝えられています。66年(昭和41年)には、半次郎が発起人の一人となつて、福岡県の醤油醸造メーカーを1つに束ねることを目的に福岡県醤油醸造協同組合を設立し、理事に就任。翌年に同組合の協同生産工場を建設し、業界の近代化に尽力しました。

その後、89年(平成元年)に合名会社松村久商店から株式会社社ジョーキユウへ改組すると同時に社屋を新築。93年(平成5年)には五代目の松村富夫とみおが代表取締役社長となり、前原工場を新築しました。そして、2005年(平成17年)に創業150周年を迎えた後、11年(平成23年)に、私、松村等彰としかきが六代目として代表取締役社長に就任し、現在に至っています。

株式会社 ジョーキュー

「誠実と信用」を旨として
 堅実に歩み、地域に根ざした企業へ

当社は創業以来六代にわたり、社是である「誠実と信用」を一貫して守り続けています。企業理念を「食文化を通じて伝統を大切に、地域に立脚した企業として貢献する。」と定めて、事業を展開しています。特に、地域をしっかりと支えるという姿勢は、先代の強い思いによるもの。また「私腹をこやすことなく、地味でも良いから堅実であれ」という思想も社員一同が共有しており、当社がコツコツと積み重ねた歴史に反映されています。

明治、大正、昭和、平成と社会、経済が大きく揺れ動いて来た中で、幾多の難事を乗り越え、^{じゆんりやう}醇良な製品造りを続けることが出来たのも、この「誠実と信用」をしっかりとして受け継ぎ守ってきたからに他なりません。これからも、次代の発展の為に、その時節に応じた改革を行いながらも、この伝統を



▲見学風景



▲当社独特の製法「再仕込」風景(本社仕込蔵/福岡市中央区大名)



②ボトル自動充填

加工調味料製造工程(前原工場)



①火入配合



▲前原工場の全景

しっかりと守り、お客様に喜ばれる商品を作り続け、地域に根ざした企業として社会に貢献していく所存です。

お取引先のニーズに応え、
 醤油とともに加工調味料も開発

日本における醤油の使用量が年々減少する中で、他社との差別化を図る為に高級化路線を志向しています。様々な商品の中でも、1863年(文久3年)建造の本社仕込蔵で造る「再仕込しょうゆ」を用いたものは、当社の代表商品と言えるでしょう。一般的な醤油は、大豆と小麦を塩水に入れて仕込みますが、当社の「再仕込しょうゆ」は、この塩水の代わりに、一番しぼりの生醤油を入れて、使用年月が百年を超える桶で再度熟成させるといふ独特の製法をとっています。いわゆる二度仕込みで、2年近くをかけて醸造する香味芳醇な逸品です。添加

物を加えず、福岡産の大豆と小麦を使用する等、原料にもこだわっています。当社こだわりの醤油は、明治以降、品評会等で数々の賞を受賞し、直近では10年（平成22年）の全国醤油品評会で優秀賞を受賞しました。時代ごとに受けた各賞は当社の誇りです。

現在、「再仕込しうゆ」を使用した主な商品として「博多大名」、「紫根しこん」がごさいますが、どちらも甘口の多い九州では珍しい、濃いめのやや辛口で、濃い味を好む人の多い関東方面で好評です。最近では、全国チェーンの居酒屋で焼きおにぎり用の醤油として採用されました。当社商品は、本社敷地内にある直販店や通販で一般家庭向けに販売を行っている他、福岡をはじめ全国の一流百貨店でもお取り扱い頂いており、当社の質の高い品々が多くの皆様に受け入れられ、愛用されているという手応えを感じています。

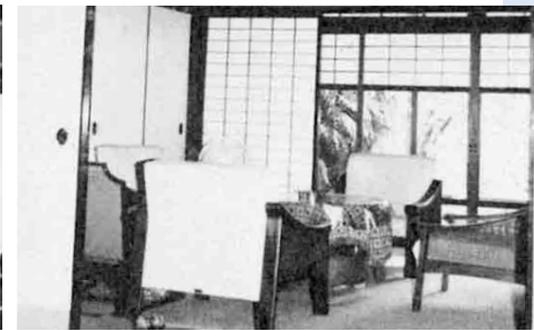
また、30年程前から「脱醤油



▲再仕込しうゆ「博多大名」「紫根（しこん）」



▲本社敷地内にある直販店（福岡市中央区大名）見学風景



▲西南戦争で官軍の宿泊所になった座敷



▲松村社長

屋」を掲げ、醤油だけではなく醤油をベースにした様々な加工調味料の開発に注力してきたことも特徴です。博多で雑煮に用いる「あごだし」を筆頭に、「香味煮付」「塩だれ」「万能みそだれ」「す漬一発」等、約100種類の商品を開発。良質な水にこだわり、前原工場を拠点に生産しています。現在では全国区の弁当販売チェーンに提供する等業務用も多く、今日では加工調味料が売上全体の6割超を占めるまでになりました。また、当社は加工調味料等のPB商品の生産も行っているのですが、通常PB商品の製造受注単位は少なくとも500ℓ以上と言われている中、当社では300ℓ以上という小ロットでも受注しており、小回りのきくことは当社の強みと言えます。お取引先の「こうした」というご要望にお応えする為に商品開発要員8人を配置して、クイックレスポンスをモットーとして開発に当たっています。

株式会社 ジョーキュー

間もなく迎える創業160周年。
経営基盤を固め
オンリーワン企業を目指す

当社では、2年後に迎える創業160周年に向けた地盤固めとして、関東・関西での販路拡大を進めつつ、品質管理体制の更なる強化と、お取引先の海外での需要に対応した商品の供給に注力していく考えです。また、現在では通販チャネルを通じて全国のお客様に当社商品をご愛顧頂ける様になりましたので、今後、スタッフの増員等により更に通販事業の拡大に傾注し、通販売上を売上全体の10%にもつていくことが目標です。

社員の福利厚生も注力点の一つです。当社には青雲会という社員互助グループがあり、年1回の旅行や新年会等を企画運営していますが、金銭的な補助を含め、社員間の親睦をサポートしています。また、私自身長年テニスを続け、現在は福岡市テニス協会の会



▲左から松村部長、松村社長、谷頭取、石橋営業本部長、荒木本店営業部長(福岡銀行)、時枝部長

長を務めていることもあって、社員のスポーツ活動も奨励しています。30年の歴史を誇るJスタースという軟式野球部、最近結成したフットサルチーム等、活発なスポーツ活動は当社の活力創出にもつながっています。

その他、目標として、創業160

周年を前に、福岡市の中心部大名にあつて、江戸時代からの長い時を経て、本社奥の建物群を、国の有形文化財として登録してもらおうべく申請中です。約150年前に建てられた仕込蔵や、西南戦争で官軍が滞在したという建物まで残されており、これらをもっと多くのお客様に見学して頂けるように環境整備を進めたいと思っています。

最後に、現在は飛躍的な売上アップは難しい時代ですので、当社は売上ナンバーワン企業になるよりも、質の高い商品を創り出し、お客様のオンリーワン企業となることを目指しています。「誠実と信用」を胸に、未来に向かって一歩一歩堅実に歩みを進め、その願いを実現させたいと思っております。

◎インタビューを終えて



福岡銀行
取締役頭取 谷 正明

創業以来、醤油造りの伝統を守り続け、地域に根ざし堅実に歩んでこられました。本日は、江戸幕末に建造された醤油の仕込蔵を見学させて頂きました。蔵の中には150年以上にわたる伝統が凝縮された、芳醇なもろみの香りが広がっており、しばし御社の長い歴史に思いを馳せつつ、極上の香りを堪能させて頂きました。

伝統の技法を受け継ぎながらも、加工調味料といった新たな分野にも挑戦される等、時代の変化に柔軟に対応される姿勢には、感嘆の思いを抱いております。今後も、質の高い商品を、多くのご愛用者の食卓に届けて頂き、御社が益々発展されることを期待致します。



トップに聞く！

紙製品のプロ集団として、
独自のワンストップサービスで
複数工程のノウハウを活かした
幅広いソリューションを提供。



株式会社池田紙器工業
代表取締役社長

池田 和隆氏

取引店／熊本ファミリー銀行 西山中学前支店

紙の可能性を信じ、
時代と歩み続けた59年の歴史

紙は、文字等の情報を伝達するための媒体として長年用いられてきました。しかし近年、こうした紙の役割(情報伝達機能)は、デジタル化の流れの中で、各種の電子情報媒体に取って代わられてつあります。ただ、こうした中でも紙でしか表現出来ないもの…例えば目で見て触って感じることの出来る微妙な風合いや質感等は、時代がどのように遷り



▲左から池田総務部長、池田社長、林頭取、江良支店長(熊本ファミリー銀行)

変わろうとも、実物でしか味わえないものだと言えます。

私ども池田紙器工業は、紙に関する付加価値の高い製品を日々追求して参りました。当社は1953(昭和28年)年、私の父である池田浩造が熊本市本山町にて、紙器(=箱)の専業メーカー「池田紙函店」かみぼしてんを創業したことに始まります。日本が高度成長期にあった69年(昭和44年)に「有限会社池田紙器工業」へと法人改組しました。私は88年(昭和63年)、当社に入社し、数年間営業や製造等に一通り携わりました。入社前に東京で3年ほど印刷の修行を積んでいた経験もあって、時代の変化に応じた最新機器の導入の必要性を強く感じた為、94年(平成6年)から2001年(平成13年)にかけて、父と相談しながら、少ない資本で一つずつ堅実に最新機器を導入して参りました。その間の97年(平成9年)に、父に代わり、私池田和隆が社長に就任しました。



▲加工された商品

当社は食品や化粧品のパッケージをはじめ、販促用POPや店内ディスプレイ等、紙に関する高品質の製品を多数提供しております。最大の特徴は、印刷物の後加工（表面印刷後に行う、製品完成までの加工）のワンストップサービスです。当社は10年前からいち早くその体制を整えておりました。

「合紙」「箔押」「打抜」「貼り」等を
一貫工程で対応する
ワンストップサービスを提供

08年（平成20年）には設備の更なる拡充を図る為、熊本市南区の富合工業団地に、本社と、高品質で安心安全な製品を提供出来るクリーンな環境を整えた工場を新築移転。10年（平成22年）には福岡営業所を開設しました。当社は創業以来、紙製品の加工を専門とするプロ集団として、時代の変化に適応しながらお客様のご要望に一つひとつ応え続け、現在に至っています。



▲工場全体を一定の湿度に保つ加湿器



▲工場入り口に設けられたエアシャワー



▲本社・工場全景



▲製造工程の様子(打抜)



▲製造工程の様子(箔押し)



▲製造工程の様子(貼り)

質の安定化を達成しています。

また、エアシャワー、陽圧管理（室内側の圧力を高くし、外部からの空気流入を防ぐこと）、加湿器、捕虫器、多重シートシャッター等を備えた密閉構造の工場も有し、紙器工場としては九州トップクラスの徹底した衛生管理と品質の安定化を達成しています。

通常の加工会社は、加工の単機能もしくは2〜3工程しか持たないところがほとんどですが、当社は「合紙」「箔押し」「打抜」「貼り」に加え、同じ団地内にある協力会社による「表面加工」、そして社内での「手作業でしか出来ない内職工程」を含めると6工程を有しており、印刷物の後加工は全てを当社でこなすことが出来ます。これらの工程の中でも、「箔押し」や「貼り」は温度や湿度等の管理も難しく、高品質な製品を提供出来る業者は限られてきます。当社は焼耐ラベル等大ロットの箔押しから手の込んだデザインの箔押しまで、品質を確保しながらスピーディに対応することが出来ます。



▲当社製品(4面パズル)



▲衛生環境講習



▲工場見学風景

このような当社の強みは、工程別に発注する手間や、運搬コストの削減、納期の短期化、製品の品質安定等といった利点をお客様に提供しています。まさに、コストや品質等の高いレベルでの両立が求められる現代に適合したサービスと言えます。

販路拡大・商品開発・社員教育に力を注ぎ、更なる飛躍を目指す

当社が注力していることに九州北部方面の営業強化があります。福岡市に営業所を開設したのも、効率良く新規顧客の開拓を図る為です。当社は現在、印刷会社様との取引に加えてお菓子メーカー様や健康食品メーカー様と直接取引を行っていますが、今後も更なる取引先の拡大を目指しています。

また、新商品開発も注力点の一つです。当社は昨年、オリジナル開発商品である4面パズル「パズルde販促」「パズルdeDM」(宣伝

を入れることの出来るジグソーパズル付ハガキ)の特許を申請しました。直接お取引をするお客様もそうですが、その先にいる、商品を受け取るお客様が貰って嬉しい商品とは何かを、常日頃考えております。冒頭で申し上げました紙でしか表現出来ない、実物でしか味わえない分野(実際に手で触って楽しい、面白い、新たな発見がある)を、今後も新たに創出したと意気込んでいます。

技術力や開発力の向上はもちろん、その為の社員教育にも今まで以上に力を入れていく予定です。当社は外部コンサルタントを導入し、毎月衛生教育を実施している他、幹部社員を中心に中小企業大学校やその他の研修会、勉強会へ積極的に派遣しています。また、従業員全員の意識の底上げを目的に、全国の先進企業へ生産管理や品質管理等の見学に赴いており、私をはじめ社員にも毎回大きな刺激となっています。



▲左から林頭取、池田社長



▲当社加工例(打抜加工)



▲創業当時から作っている貼函

全てをブラッシュアップさせ、
時代のニーズに適應した
紙製品づくりを

将来展望としては、お客様第一主義をモットーに、実物の媒体である紙ならではの特性を活かして、より専門性の高いソリューションの提供を目指します。当社では、お客様に多種多様なご提案を出来るだけの開発力を高めながら、当社の強みである技術、専門性、生産性、ワンストップサービスもブラッシュアップさせ、全てに満足して頂けるサービスを提供し続ける企業でありたいと思っております。お客様に「自社で行うより、池田紙器工業に任せる方がメリットが高い」と言ってもらえる存在が理想です。

最後になりますが、当社は今年で創業60周年を迎えます。お客様に期待され、支持される企業、社員が物心両面の幸福を得ることが出来る企業を目指して、今後の経営に取り組んでいく所存です。

◎インタビューを終えて



熊本ファミリー銀行
取締役頭取 林 謙治

光沢の美しいパッケージや色鮮やかな箔押の高級貼箱、遊び心のある4面パズル等、想像を遥かに越えたデザイン性の高い品々に大変驚きました。また、他社に先駆けた紙製品の加工に関するワンストップサービス体制の構築や技術力、品質管理の水準の高さは、「お客様のご要望に応え続ける」という創業当時からのご想いを着実に実現されてこられた結果だと拝察します。

今年で60周年を迎える御社が、今後も紙製品のプロ集団として時代のニーズに合わせた新たな付加価値を創出され、益々ご活躍されることを期待しています。



トップに聞く!

1110余年の伝統を礎に、
新しい感性を基にした多様な事業を
展開して地域社会に貢献。

石油販売業を出発点に
時代の変化を見据えながら
多角化を推進

創業は1899年(明治32年)、
長崎市千馬町(現、出島町)で照
明用の油や機械の潤滑油の販売
を始めたことが当社の歴史の幕
開けとなりました。1949年
(昭和24年)には株式会社藤岡石
油店を設立。モーターゼーション
(自家用自動車の普及)とともに、
ガソリン販売が拡大し、当社も発
展していきました。



フジオカ

株式会社フジオカ
代表取締役社長

藤岡 秀則氏

取引店 / 親和銀行 大波止支店
福岡銀行 長崎支店

株式会社 フジオカ

1990年代に入ると、石油の輸入自由化やセルフ式スタンドの解禁等、相次ぐ規制緩和によってガソリンスタンドの競争が激化してきました。当社も1990年代のピーク時は25ヶ所のスタンドを有していましたが、今日ではフルサービスを提供するスタンド4ヶ所、セルフ式スタンド6ヶ所の計10ヶ所へと集約しています。

その一方で、石油業界が将来的に厳しくなることを見越して、1980年代から石油以外の事業に着手。84年(昭和59年)に事務機器会社を買収して、現在のオフィスシステム事業の礎となる会社を設立したのを第一歩として、事業の多角化に取り組んで参りました。

94年(平成6年)には、事業の多角化によって誕生した複数の関連会社と本社を統合し、株式会社フジオカと社名を変更しました。その後、2006年(平成18年)にわたくし藤岡秀則が4代目社長



▲当社玄関の前(左から藤岡社長、小幡頭取)

に就任。09年(平成21年)に創業110年を迎え、今日に至っています。

全社がひとつになって進むため、就任後に会社初となる理念を制定

私が社長に就任する前まで、当社には経営理念として明文化されたものが存在していませんでした。これは、一昔前までは本業の石油事業が順調に推移していたこともあって、明確な経営理念を掲げる必要性を認識していなかったのだと思われまます。しかし環境が変わった今の時代に適応していく為には、全社員が一丸となつて進む方向性を示す必要があると考えて、社長就任時に「心をひとつに、誠実で誇りある会社を目指し、事業を通じ、地域の未来と全従業員の幸福を追求する」という経営理念を制定しました。

更に、社長就任時に経営方針として社員に対して約束したことがあります。それは、「人員削減を決して行わないこと」です。「事業に関して厳しい要求は行うが、安心して仕事に集中して欲しい」という思いを込めています。

社員の受け皿としての側面も併せ持つ新規事業に次々とトライ

当社は時代の流れと環境の変化に対応すべく、事業の多角化に取り組んで参りました。現在は、創業以来の中核事業である石油事業に加え、消防防災関連機器の点検・改修・設置及びビルメンテナンス、各種事務機・事務処理機器・ソフトウェア販売、太陽光発電、不動産、保険、福祉、ゴルフ練習場、コインランドリー等、幅広い事業を展開しています。その他、関連会社で自動車钣金事業も手掛けています。



▲フルサービススタンド(馬町サービスステーション)



▲ガソリン販売を開始した頃の本社



▲福祉事業(デイサービス「ふじの丘」施設内)



▲オフィスシステム事業



▲太陽光発電システムの設置例

株式会社 フジオカ

新規事業を開始するにあたって私が留意していることは、大きな利益は見込めなくても長く続けられるビジネスを展開し、当社の人材を活用出来る受け皿とすることです。福祉事業はその最たる例です。事業参入を決意した背景には、高齢化の進展により需要が拡大するという見通しは当然ありましたが、人材の受け皿としての期待も大きなものがありました。

また、当社では、天草での車海老の養殖・販売事業にも取り組んでいます。当事業に着手したきっかけは、当社に「飼料事業」と「車海老の養殖事業」の提案が、時を同じくして持ち込まれたことです。両事業を組み合わせ、飼料を養殖に活用することで付加価値が高められるのではないかと閃き、事業に着手しました。その後、事業は順調に拡大し、現在では約1万坪の養殖場で車海老40万匹の養殖を行っています。

石油事業はこれからも
事業の中核に位置づけて
人材育成に傾注

今日、石油業界を取り巻く環境は厳しく、需要は緩やかな減少傾向にあります。しかし自動車は社会から消えることは無く、その自動車に燃料を提供する石油事業が無くなることもあり得ません。石油事業は当社の本業、そして「顔」でもあることから、今後も中核事業として競争力向上に取り組んでいく方針です。そして、その具体的施策の一つが、ガソリンスタンドのスタッフ育成です。ガソリンスタンドは販売する商品での差別化が困難であり、「スタッフによるサービス」がお客様から選んで頂く上での大きな差別化要素となると考えています。お客様から、「当社のスタッフは接客態度が気持ち良いから是非利用したい」と思ってもらえるよう、接客態度の指導に注力しているのです。



▲サービスステーションでの車検作業



▲セルフ式スタンド(女神サービスステーション)



▲五島手延うどん、かんころ餅、矢堅目の塩



▲直営店「藤」で提供している自社の車海老を使用した天丼



▲養殖事業(車海老)

人材育成の一環として、当社ではドライブウェイコンテスト(社内での接客コンテスト)を実施しています。これは、各スタンドから選抜メンバーを集め、他事業の社員が接客をチェックし得点を競う大会です。他人の接客を見ることで初めて気付くことも多く、今後このような教育の充実・徹底化を図ることで、サービス品質の向上に努めたいと思っています。

**多様な新規事業を育て、
今後も地元長崎に
貢献し続ける**

将来展望としては、前述のような取り組みを通して本業の事業規模を維持しつつ、新規事業の更なる発展を目指します。新規事業の中でも特に注力している事業の一つが、最近注目を集めている太陽光発電です。当社では「石油を扱う会社からエネルギーを扱う会社になりたい」との思いで約

10年前から取り組んでおり、今後事業拡大を図っていきたくと考えています。

また、長崎特産の五島うどんの販売事業にも注力しています。直営店の「藤」では、自社で養殖した車海老とともに五島うどんを提供しており、お客様にご好評頂いております。また、当社ではBARAMON(バラモン…五島の方言で「元気な人・活発な人」という意味)というブランドで、

「五島手延べうどん」、「かんころ餅」、「矢堅目の塩」といった五島の特産品をセットにして販売しています。BARAMONは多くの方に手にとって頂けるよう、パッケージのデザインに工夫を凝らしていることが大きな特徴です。パッケージに対する評価は非常に高く、そのお陰もあつて、現在では長崎県内をはじめ様々な場所でBARAMONを取り扱って頂いております。微力ながら離島の振興にも役立つのではない



▲藤岡社長



▲ドライブウェイコンテストの様様



▲左から福島支店長(親和銀行)、藤岡社長、小幡頭取



▲ドライブウェイコンテストの表彰式

株式会社 フジオカ

かと自負しています。

これらに代表される新規事業の発展の為に、現在「既存内新規運動」を推進しています。これは、例えばガソリンスタンドをご利用頂いているお客様に、事務機器や車海老等の当社の他事業の商品・サービスもご利用頂くようにする等、お客様と当社との取引を深めていくことを目指すものです。全社員が当社の多様な事業の商品を積極的にアピール出来るようにしたいと考えています。

今後は、当社独自の強みを創ることが大きなテーマです。「これだけは他社に負けない」というものを見つけ、育てること、今後も地元長崎にしっかりと根を下ろして事業を展開出来るようになり、長崎の経済や雇用創出に貢献していきたいと考えております。



▲左から福島支店長(親和銀行)、藤岡社長、小幡頭取

◎インタビューを終えて

創業以来110年以上もの間、経済活動に無くてはならない燃料の供給という、重要な役割を担い続けておられます。また、藤岡社長様のお話をお伺いして、様々な新規事業に積極的に挑戦しておられる背景には、「本業を取り巻く環境が厳しい中でも力強く生き残り、事業を通して地域経済に貢献し続けていく」という強い決意があることを実感し、感嘆の思いを抱きました。

今後も御社が、エネルギーの供給を中心に幅広い事業を展開する企業として、そして雇用の維持・創出という側面からも、地元長崎の経済を支え続けて下さることを期待しております。



親和銀行
取締役頭取 小幡 修

10, - 15, 株式会社 ジョーキュー

ジョーキュー

検索

- 創 業 : 1855年
- 設 立 : 1926年
- 所 在 地 : 福岡市中央区
- 資 本 金 : 9,200万円
- 従 業 員 : 83名
- 事業内容 : 醤油・加工調味料製造販売業
- 事業拠点 : 福岡市中央区(本社、工場、営業所、直営店)、
福岡県糸島市(工場)
- 取 引 店 :  福岡銀行  本店営業部 092-723-2131



16, - 21, 株式会社 池田紙器工業

池田紙器工業

検索

- 創 業 : 1953年
- 設 立 : 1969年
- 所 在 地 : 熊本市南区
- 資 本 金 : 1,000万円
- 従 業 員 : 42名
- 事業内容 : 印刷紙器・貼箱の製造販売、印刷物の後加工全般
- 事業拠点 : 熊本市南区(本社、工場)、福岡市東区(営業所)
- 取 引 店 :  熊本ファミリー銀行  西山中学前支店 096-353-2288



22, - 27, 株式会社 フジオカ

フジオカ

検索

- 創 業 : 1899年
- 設 立 : 1949年
- 所 在 地 : 長崎県長崎市
- 資 本 金 : 6,750万円
- 従 業 員 : 210名
- 事業内容 : 石油事業・オフィスシステム事業・防災事業・福祉事業・
不動産事業・太陽光発電事業・車海老販売事業・自動車钣金事業等
- 事業拠点 : 長崎県長崎市(本社、ガソリンスタンド、車検センター、ゴルフ練習場、飲食店、コインランドリー)、
長崎県佐世保市(ガソリンスタンド、防災事業部)、
長崎県西彼杵郡、諫早市、雲仙市(ガソリンスタンド、物流センター)、長崎県大村市(钣金工場)、
名古屋市中区、福岡県春日市、佐賀県小城市(営業所)
- 取 引 店 :  親和銀行  大波止支店 095-822-8151

